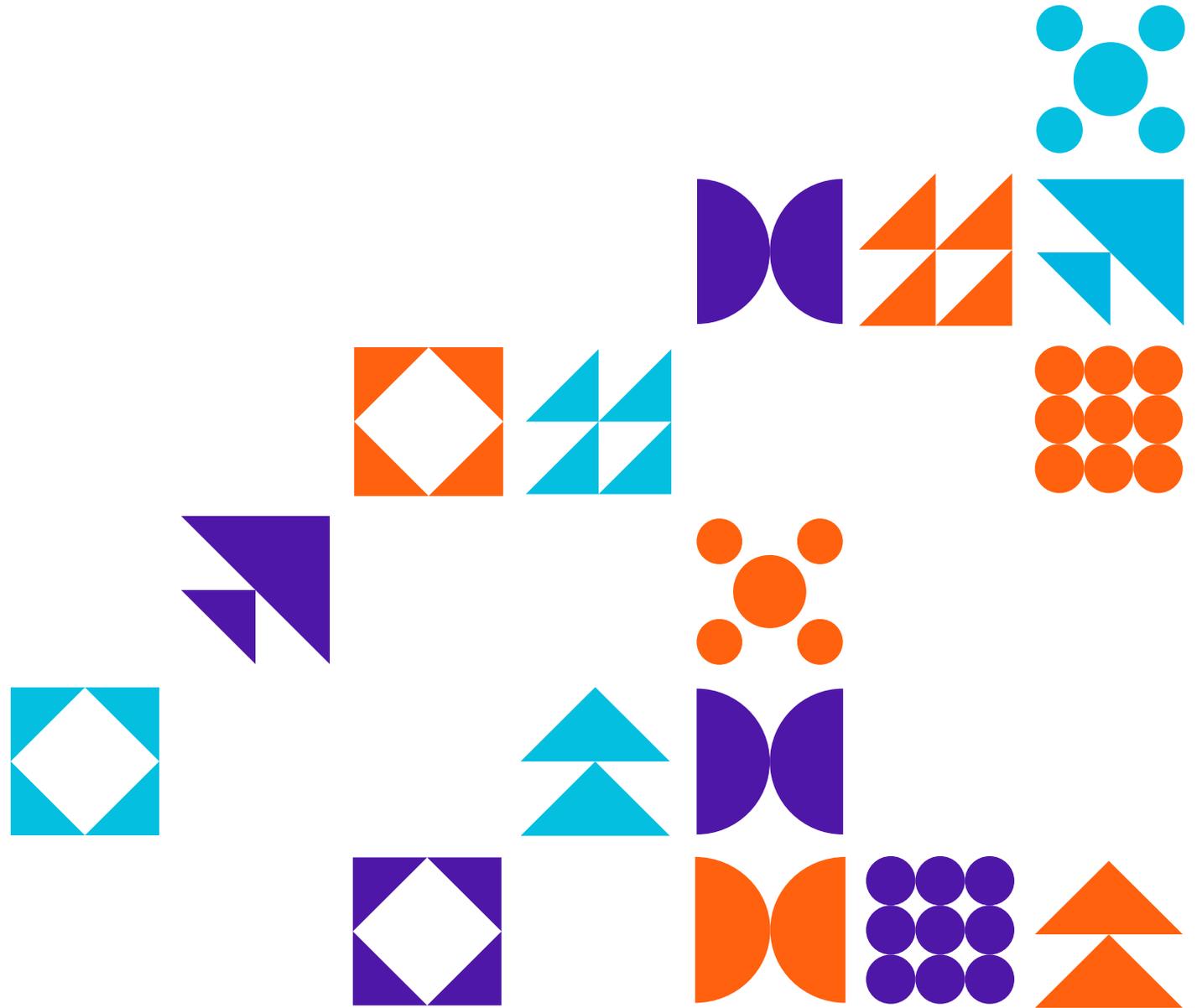


# 2024年 WG2活動構想

～PMに活用できるAI検討～

AI@Work WG2 AI4PM

三五 大輔



# 各WG 2023年研究テーマ

AI@Work ConferenceおよびPMIJ Forumにて広く対外へ発信

## PM4AI



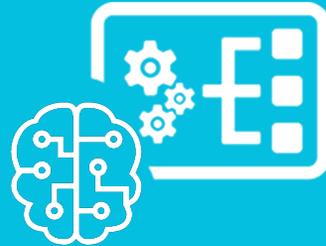
Project Management  
for AI

# 4

テーマ別に4つのサブグループで研究を実施、月例会で共有

- D0: AIプロジェクトの進め方
- D1: 実用化～実用化後の課題
- D4: 機械学習の品質マネジメント
- E5: AIPMBOK  
(AIプロジェクト知識の体系化)

## AI4PM



AI for  
Project Management

# 3

3つのサブグループに分かれて活動

全体：提供可能な情報の再整理

A: AIレベル定義の深化と認知向上

C: 人的リソースを題材とした検討

D: PMBOK®10の領域に対し、  
**AI実用要件抽出フレームワーク**  
**試行と、ワイガヤ・ツール調査活動**  
→プロジェクト・コモンデータモデル for  
AIの整備に発展

## AIK4PM



AI Knowledge for  
Project Managers

# 5

「AIを理解する3段階」を推進

1. 知る

- ・輪講

2. 理解する

- ・DeepLearning G検定勉強会
- ・Python勉強会

3. 使える

- ・AI実践
- ・最新AI動向調査

# PM分野におけるAI環境の変化とWG2「AI4PM」の活動成果

## 2020年発足当初のAI環境

- 世間のAIへの認知は低い
- 一部のAI除き実用的なAIが少なく、PMに使えるようなAIがない
- AIに対する過剰な期待

## AI4PM活動の成果【2020年～2023年】

- PM領域における共通フレームとしての分野のAIレベル定義の提唱
- 人材領域でのAIの適用の検討

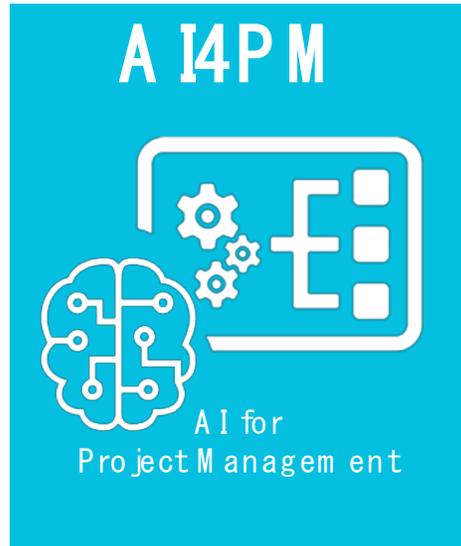
## AI環境の変化により新たな課題が発生

- AI開発への投資に対するリターンが少ない（ように思われている）
- AIツールの適用の効果がわかりにくい
- セキュリティ等による制約
- PM分野のデータの準備状況が不十分など、、、、

## 2024年現在のAI環境

- 世間のAIへの認知は向上
- 生成AI、チャットボット、タスクのトラッキング等、PMに使えるようなAIが誕生するもPM専用のAIは少ない
- PM領域の**AIレベル定義を公表済**

# 2024年のAI4PMの活動方針



## WG2の全体目的

プロジェクトマネジメントを最適化するために、  
AI技術の適用方法を研究する

## 2024年活動の具体的な内容

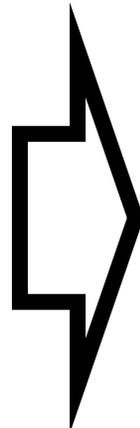
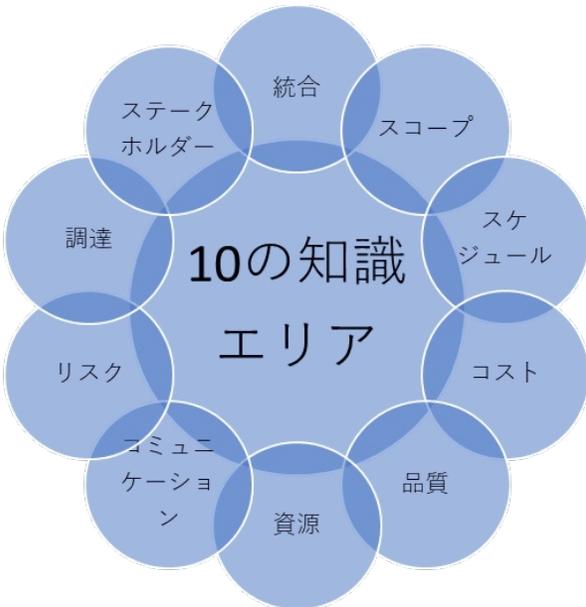
- ① AI4PMとしてのステークホルダーへの情報提供が可能な内容の再整理(WG2全体)
- ② PM領域におけるAIレベル定義の深化とPM分野におけるAIの活用例の収集(SubA中心)
- ③ 人材領域におけるAI適用の検討と試行(SubC中心)
- ④ AI領域におけるプロジェクトコモンデータモデルについての検討(SubD中心)

※WG2の運用にAIツールを適用し、その情報も適宜共有予定



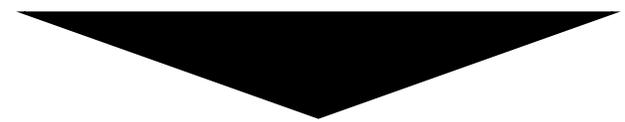
※サブグループ分けているが、WG全体で横断的に検討

# 2023年までの成果物 AIレベル定義の深化と公表



プロジェクトマネジメント  
の  
AIレベル定義

多様化するPJでは、会話する人間の出身業界や本人の知識などで、マネジメント方法は異なる。まして「どの様にAIを活用するか」といった事になると、**その認識・認知Gapは激しい。**



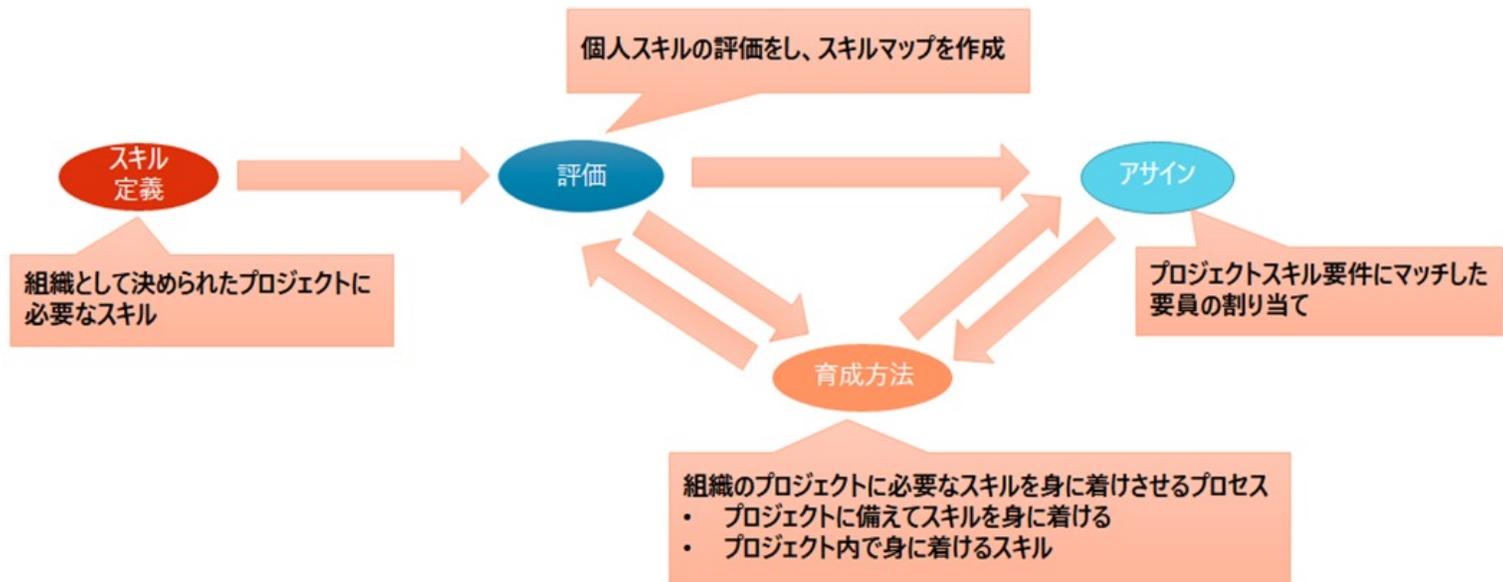
2023年度では、AIレベル定義の深化と世間の認知アップのための外部公表を実施

10の知識エリア毎に各レベルの「概念」ならびに、「具体例」として「例えばこんな処理」を記載

# 2023年までの成果物 人材領域へのAI適用の検討

2022年に検討した人材領域の課題を踏まえ、改題解決のための特徴量候補の抽出を実施

## カテゴリの定義とカテゴリ間の関係

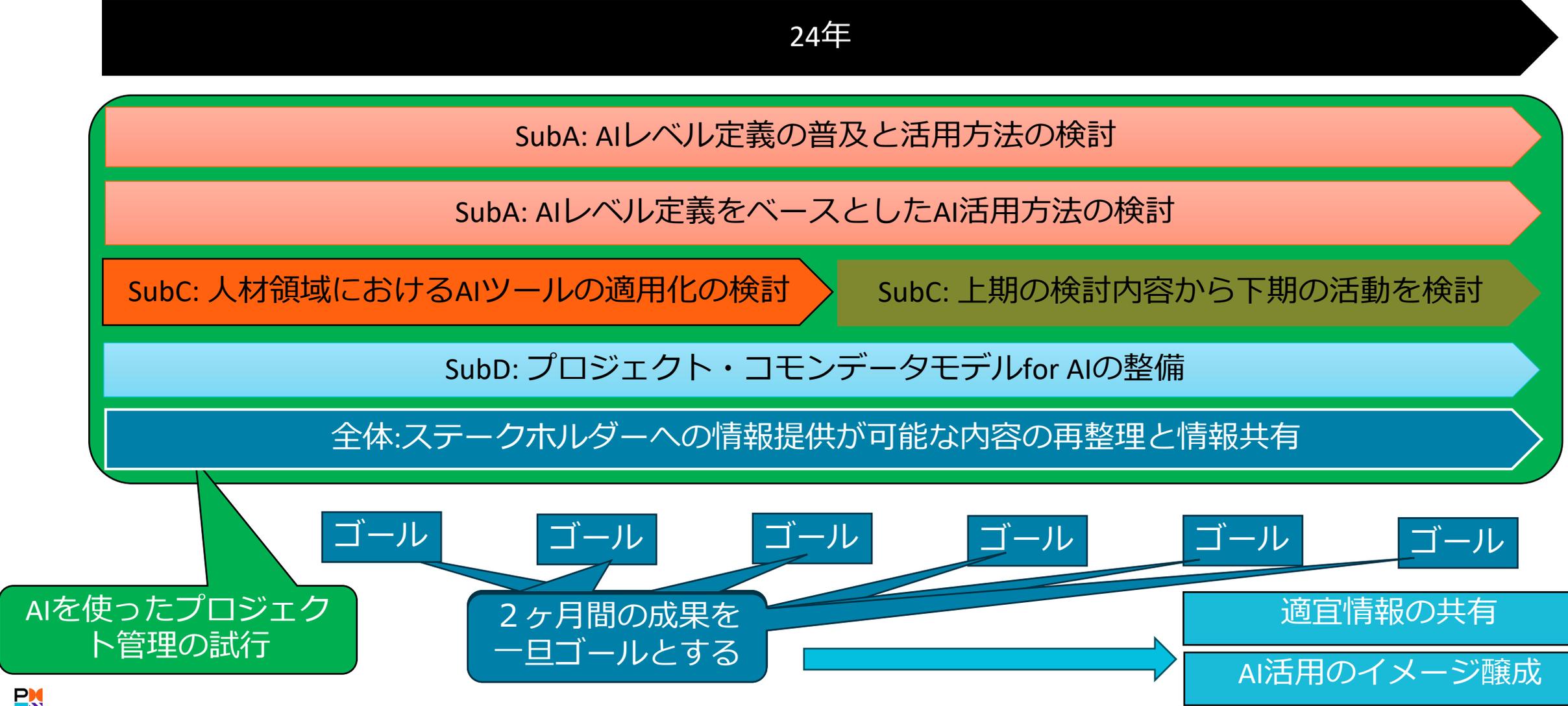


### 困難だった点

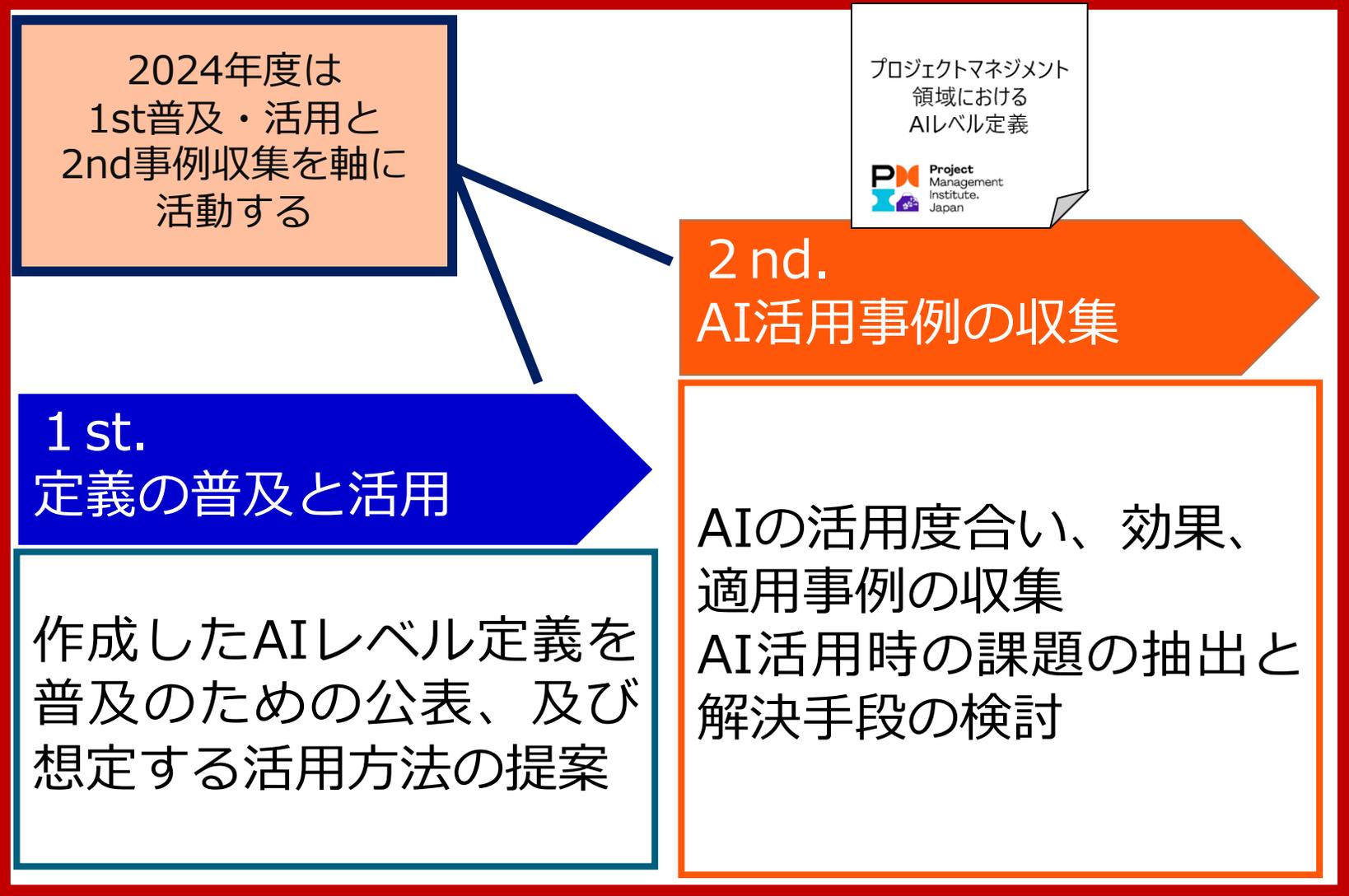
収集データ項目の決定を中心に進めないとアウトプットが難しい。

仮想プロジェクトを想定して生成AIを使い、インプットデータを検証。生成AIの確からしさを検証  
人材の領域(スキル定義・評価・育成・アサイン)においてAIツールの適用性を検討

# 2024年 スケジュール: 2ヶ月を一つのループとして、検討内容を適宜情報共有



# 2024年のSub A(AIレベル定義)の活動内容



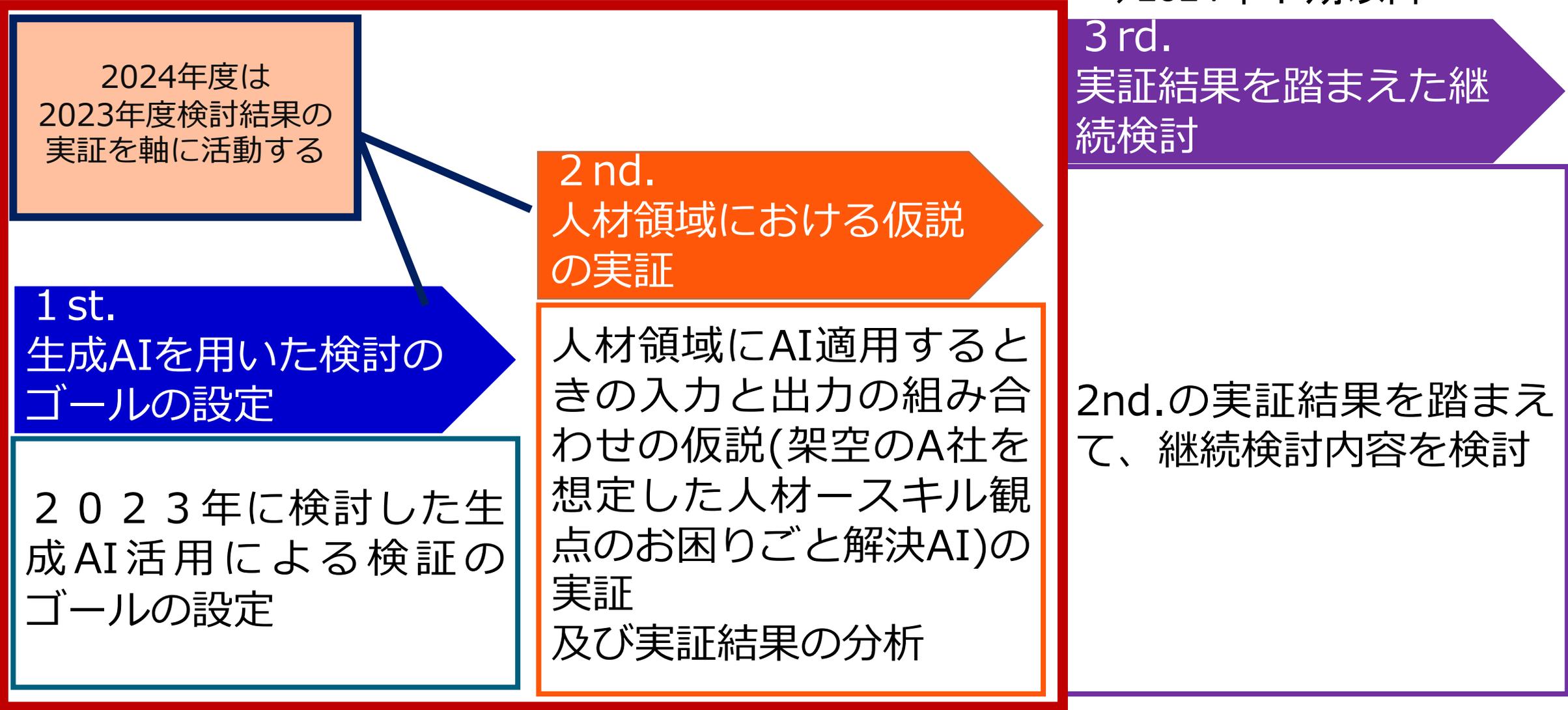
→2025年以降

## 3 rd. AI適用範囲の拡充促進

AI活用と共創機会を提供  
可能なプラットフォーム  
の検討

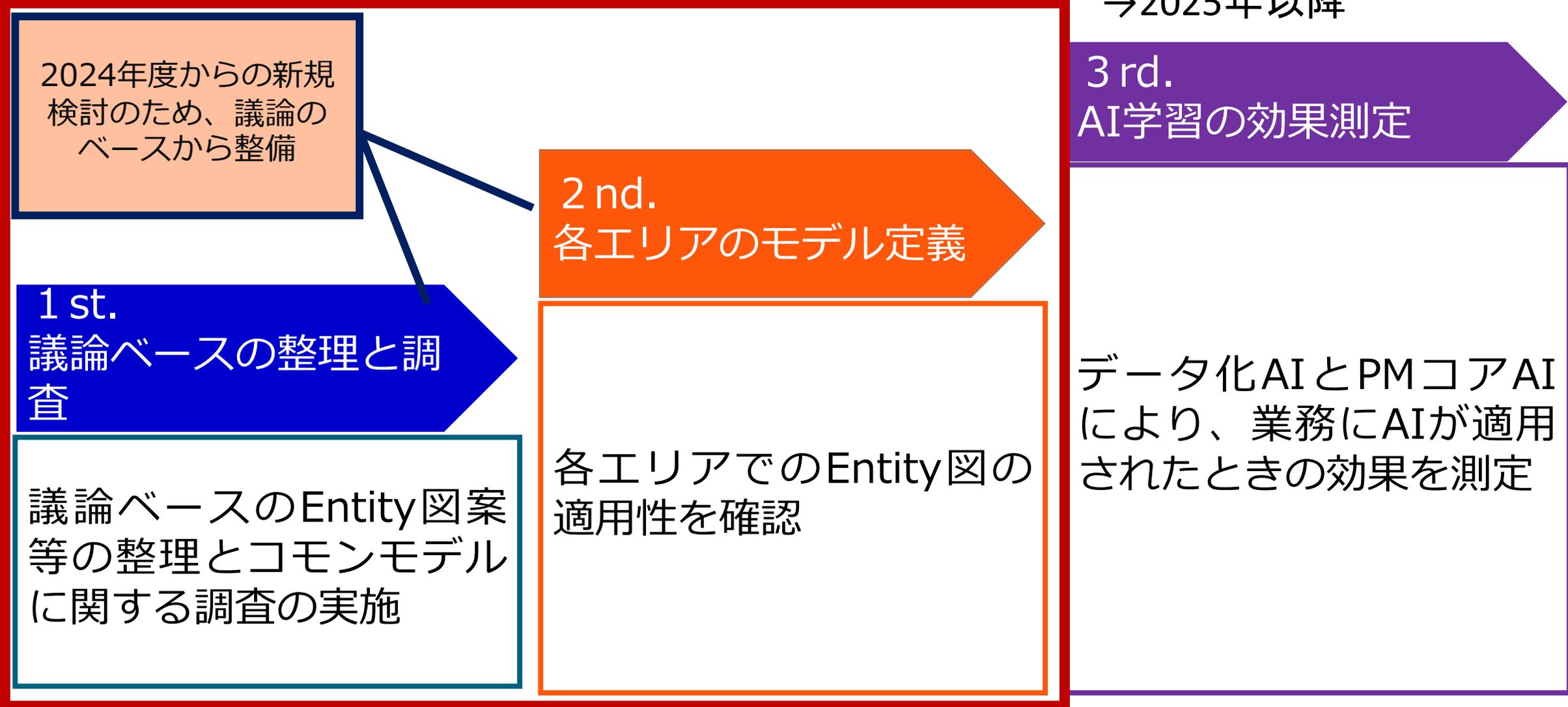
# 2024年のSub C(人材領域でのAI適用)の活動内容

→2024年下期以降



# 2024年のSub D(コモンデータモデル検討)の活動内容

→2025年以降



2024年度からの新規  
検討のため、議論の  
ベースから整備

1 st.  
議論ベースの整理と調  
査

議論ベースのEntity図案  
等の整理とコモンモデル  
に関する調査の実施

2 nd.  
各エリアのモデル定義

各エリアでのEntity図の  
適用性を確認

3 rd.  
AI学習の効果測定

データ化AIとPMコアAI  
により、業務にAIが適用  
されたときの効果を測定

# 2024年の全体(情報提供が可能な内容の再整理と共有)の活動内容

→2025年以降

WG2発足時のWG2での検討内容をベースに議論

1 st.  
WG2の位置づけの再定義

WG2発足時(4年前)からの技術発展を踏まえた、WG2の位置づけの再定義

2 nd.  
ステークホルダーへ提供可能な情報の整理と共有

WG2から各ステークホルダーへの提供可能な情報を整理し、順次発信/共有する。

3 rd.  
活動内容の更新と情報共有の継続

2024年活動を踏まえて、活動内容を更新  
活動内容の情報共有は継続

# AI@WorkのWG2の描く将来

スポンサー

プロジェクト・マネジャー・PMO



AIによるPMの最適化

プロジェクトマネジメント  
領域における  
AIレベル定義



Project  
Management  
Institute,  
Japan



AI開発者

全てのステークホルダーに  
とって最良な成果が得られる  
プロジェクトの実施

プロジェクト・メンバー



顧客

# AIレベル定義についてPMJのHPで公開中



## プロジェクト・マネジメント領域におけるAIレベル定義 ※1 (補足資料)

※1 当資料では、AIレベル定義と略称で説明します

## プロジェクトマネジメント領域におけるAIレベル定義

自動化レベル	基準	レベル0	
	特徴量 指標となるもの	概念	具体例
知識エリア	自動化レベル説明	情報処理のみで、特に制御をしないプログラム	受注管理システムや、発注管理システム、数値集計をする旧システム
統合	総合的に判断 →判定基準のもの →各準備の割合 →知識の合算	統合マネジメントのインプット情報・アウトプット情報が管理されているのみ。 各知識エリア個別の変更がプロジェクト全体へ及ぼす影響範囲は判らない	プロジェクト憲章、プロジェクト・マネジメント計画およびプロジェクト文書を管理するのみ
スコープ	要件の充足具合 →要件の数 →設計値のエラー数 →事例数 →上流	プロジェクトのスコープマネジメントについて情報を管理するのみ。 スコープを更新しても、影響範囲は判らない	過去のスコープ情報（要求事項収集、スコープ定義、WBS、スコープ妥当性確認）はファイル単位で管理するのみで、特徴量を元に人が経験に基づき、スコープ妥当性確認やスコープコントロールの判断を行う

プロジェクト・マネジメント領域におけるAIレベル定義をHPで公開中です

<https://www.pmi-japan.org/aiatworkcommunity/page-89/>



# 最後に

WG2では参加者を随時募集しています。

プロジェクト・マネジメント分野へのAI適用について興味がある方

プロジェクト・マネジメント分野へのAI試行について興味がある方

AIレベル定義、人材領域へのAI適用、コモンデータモデル検討に興味がある方

ぜひ、一度月例会に参加してみてください。

月例会：毎月第1水曜日 19：30～21：00（オンライン）

次回：2024年2月7日（水）

